

○知多地域の概況

知多地域は、名古屋市の南部から突きだした知多半島と篠島・日間賀島により構成され、地勢は第三紀層に占められた中央部と、それに連なる洪積台地からなっています。総面積はおおよそ3万9千ヘクタール、人口約60万人で、南北に細長い半島にJRと名鉄の鉄道路線、知多半島道路や国道247号線などの主要道路が縦断しています。

また、当地域は、大河川がなく長年のあいだ水不足に悩んできましたが、昭和36年に愛知用水が完成し、農業・工業・上水道用水が安定的に賄われることとなり、同地域の産業経済は飛躍的に発展しました。県内でも農林水産業が盛んな地域であることに加え、マリンスポーツや味覚狩りなどのレクリエーションや温泉など観光業も盛んな地域です。

平成17年には中部国際空港が開業し、同時に伊勢湾岸自動車道も主要高速道路と接続し、県外からのアクセスも飛躍的に向上しました。



中部国際空港セントレア



知多半島道路



愛知用水

○知多地域の農業

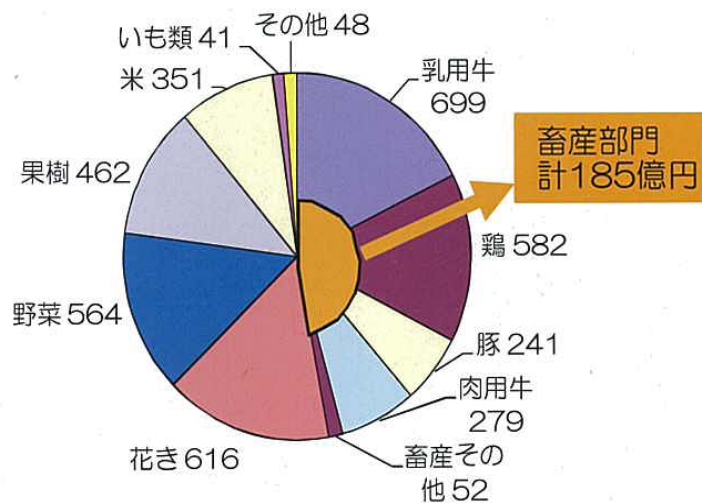


知多地域の農業は、愛知用水の通水や、農地開発、農地基盤整備などの広範囲な農業・農村整備が進められて、発展してきました。

農業生産は、都市近郊地帯としての立地条件を活かし、経営は多岐にわたっており、なかでも「たまねぎ、ふき、みかん、ぶどう、いちじく、洋ラン」などの栽培は特産地として知られています。また、都市近郊にもかかわらず、県内有数の畜産の盛んな地域でもあります。

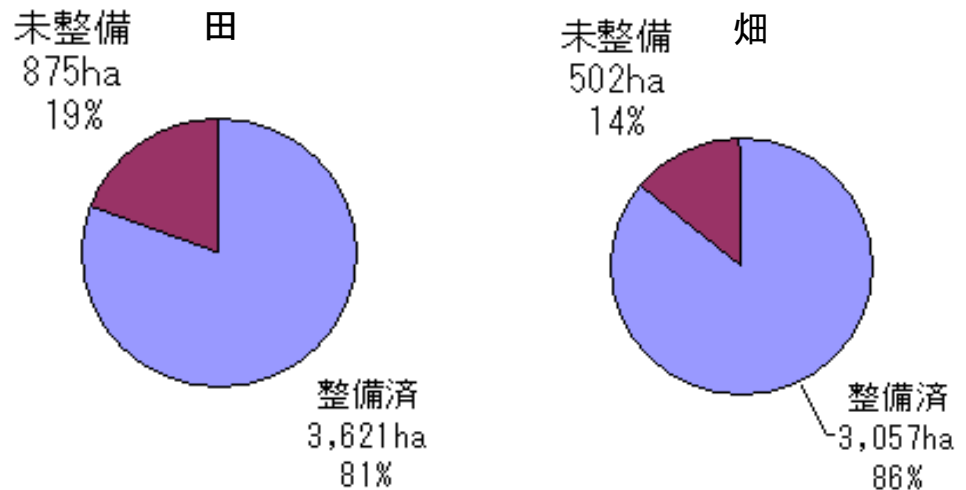
農業産出額では、畜産部門、花き、野菜、果樹及び米と続き、各作目間のバランスがとれた産地を形成していることも大きな特徴です。

知多地域の農業産出額（千万円）



H18(第54次愛知農林水産統計年報)

知多地域の田畑の基盤整備率



H23.3.31時点(平成22年度末 農地整備率状況調査)

※整備率・・・「田」は20～30a区画以上に、「畑」は末端まで農道が整備された耕地の割合を示したもの